

ICT街づくり推進会議（第2回） 議事要旨

1. 日時

平成25年3月5日（火）15:00～17:00

2. 場所

中央合同庁舎2号館8階 総務省第1特別会議室

3. 出席者

（1）構成員

岡座長、小宮山座長代理、石原構成員、岩沙構成員、清原構成員、徳田構成員、村上構成員

（2）オブザーバ

内閣官房IT担当室、農林水産省大臣官房統計部、経済産業省商務情報政策局、国土交通省総合政策局、国土交通省都市局

（4）総務省

桜井情報通信国際戦略局長、久保田官房総括審議官、谷脇官房審議官、山田情報通信国際戦略局参事官、渡辺情報通信政策課長、中村融合戦略企画官

4. 議事

（1）検討部会からの中間報告

（2）構成員からのプレゼンテーション

（3）地域懇談会の進め方

（4）フリーディスカッション

5. 議事概要

（1）検討部会からの中間報告

徳田構成員より、資料2-1に基づき検討部会からの中間報告が行われた。

（2）構成員からのプレゼンテーション

小宮山座長代理より、資料2-2に基づき説明が行われた。

（3）地域懇談会の進め方

事務局より、資料2-3に基づき地域懇談会の進め方について説明が行われた。

（4）フリーディスカッション

岡座長より、資料2-4に基づき説明が行われた後、構成員による意見交換がなされた。

れた。主な発言は以下のとおり。

【石原構成員】

- ICTシステムは、利用者の方に実際に利用してもらうことが重要。開発者側はシステムを構築して安心してしまいが、構築したシステムがきちんと利用されているか客観的に検証することが重要。5つの実証プロジェクトについても、単に聞き取り調査を行うだけでなく、センサー等の最先端のICTを用いた行動分析を行ってはどうか。その上で、良かったもの、悪かったものを含めた成果をオープンにし、特に失敗事例を積極的に取り上げて、将来の改善材料にしていくことが重要。
- 共通プラットフォームを構築する際は、それぞれの分野に存在するルールや規制にとらわれずに最終的に便利なものとするべき。
早期に具体的なプラットフォームの姿を見える形でお示しいただきたい。

【岩沙構成員】

- 実証プロジェクトの成功事例の水平展開については、新たな実証プロジェクトの選定や、実証プロジェクトをやっただけで終わらせないためにも、更なる議論が必要。
- 新規案件を農業、教育、コミュニティ、財政などの課題を重点的に選定することは重要だが、いずれの分野にも様々な規制が存在する。実証を行う中で、大胆な規制改革の必要性を感じており、水平展開に向けて規制緩和も含めた議論をしてほしい。
- 労働人口が減少する中で、女性が社会参画しながら子育てをする社会をICTを活用することで実現出来れば、人口減少が続く少子高齢化社会からの脱却も可能になるのではないかと。
- スマートシティは、エネルギーや電力を賢くマネジメントするだけでなく、町全体が環境にやさしく、水がおいしい、空気がきれい、緑が多く景色が良いといった観点も重要。

【清原構成員】

- 住民メリットの明確化、利用者視点を主軸に置くことは大変重要。
- 地域作りの担い手として、民間投資を引き出すような取組であることを基本的な考え方に位置づけたことはバランスのある指摘。
- 実施体制について、地方公共団体の主体的な関与を明確化した上で、ICTを活用した街づくりにおいては民産学公官との連携として地域のコミュニティが単なるユーザーとしてではなく、相互に主体的に関わっていくことが重要。
- マイナンバー法案が国会に提出されたが、行政が導入した共通ID利用が拡大することで市民生活に有用なサービスに結びつくことを期待。活用にあたって

は、オープンデータも含め、個人情報保護等、条例の改正や自治体における法制度整備が求められるため、セキュリティを確保する技術的な基準や仕様の検討が必要。

- 街づくりの明確なビジョンとICTによる解決策について、都市農業や中山間地の他の農業、酪農地域におけるICTを活用した新しい農業の在り方は重要なテーマ。農地は防災、緑地保全、子供たちへの教育、福祉との連携など、重要な役割を果たしている。
- 子供たちにICTをきちんと主体的に使える環境を整備する情報教育も重要。
- 老朽化した社会インフラの管理は極めて重要な課題。ビジネスとして成り立つ成功事例も隠れていると思われ、研究が進めば普及にもつながる。
- 安全・安心の観点から、防犯・治安維持・サイバー犯罪の防御についても、ICTによる課題解決の新たな視点として位置づけてはどうか。

【村上構成員】

- 小宮山座長代理の資料にある職業大学ルネッサンスについては、農業だけでなく、産業構造の7割を占めるサービス業についても、製造業と比べ高等教育にかかわる仕組みが手薄であることから、こうした分野にも高等専門教育のようなものが必要ではないか。
- 実証プロジェクトの成果の横展開について、出来上がったものをグローバル展開するのではなく、5つの事業が開始された段階からグローバル展開が始まっているという認識をもって、実証プロジェクトのプロセスから得られる知見を積極的に情報配信すべき。
- 現在行っている5つの実証事業について、技術がどう使われているかについてはわかるが、誰がどのように使うのかという利用者のイメージが浮かびにくい。ICTを活用したサービスがどのようなものかを考え、それがもたらす街づくりという視点を強調して、もう少し利用者のイメージが見える街づくりを推進していくべき。

【徳田構成員】

- 本日頂いた意見については検討部会に持ち帰り、さらに議論を深めていきたい。
- 5つの実証プロジェクトについて実業を実施するプロセスの中からグローバル展開に向けた情報配信を行うべき。そこで、国際シンポジウムを総務省が主体となって開催し、ICTスマートタウンのショーケースの場を作り、我が国の取組を宣伝してはどうか。
- 実証プロジェクトについては、ただ作って終わりということにならないよう、これをどう加速し、どのように評価をして、次の形をどうしていくかについては検討部会でさらに協議したい。

【小宮山構成員】

○横展開、水平展開の重要性については言うまでもないが、昔で言う、八幡製鉄所と同じものを室蘭にも作ろうというような議論とは異なる難しさがある。それぞれの街は異なるため、単にある街の成果を別の街に横展開してもうまくいかない。成功事例を因数分解して、再利用出来るところまで要素に細分化し、その要素を他の街に応用していくことが必要。

【岡座長】

○5つの実証プロジェクトについて、是非とも成功するよう、検証も勿論だが応援するという気持ちも持って現地を訪問して実際に街づくりに取り組んでいる人から話を聞きたい。成功例をたくさん作るとともに、街づくりの横展開はなかなか簡単にはいかない部分もあると思うので、それぞれの特徴を活かした街づくりを応援できればと思う。

以上